

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	須河車体(株)事務棟	階数	地上2F
建設地	京都府綴喜郡宇治田原町大字立川	構造	S造
用途地域	準工業地域、無指定(法22条区域)	平均居住人員	100人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年7月16日
敷地面積	72,634 m ²	作成者	田中 哲治
建築面積	1,395 m ²	確認日	2019年7月20日
延床面積	2,582 m ²	確認者	田中 哲治



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ①参照値: 100% ②建築物の取組み: 75% ③上記+②以外の: 75% ④上記+: 75% <p>0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合 計画敷地及び周辺の地域における環境を保全するため、騒音、振動等による環境悪化の防止上必要な緩衝帯(緑地等)を敷地境界線10mの範囲と設定した。また、敷地の一部は、糞田・立川地区地区計画整備区域内となり、工業環境の悪化を防止し良好な生産環境を形成し保全する目標とされた区域である。</p>		
<p>Q1 室内環境 F☆☆☆☆や告示対象外の建材を使用した。事務棟内は全面禁煙とし、別棟にて喫煙スペース(屋根付き)を確保している。</p>	<p>Q2 サービス性能 工場用途であるため、機能性・空間のゆとりを十分に持たせた設計とした。また、2階事務室に隣接させリフレッシュルームを設置した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 工場立地法で緑化率25%を確保。残置森林の保全及び法面の緑化に努めた。</p>
<p>LR1 エネルギー エネルギー効率の高い機器を選定した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生器具を採用した。</p>	<p>LR3 敷地外環境 適切な駐車施設の確保を行った。</p>
		<p>その他 特になし。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される